

1. 「ホシザキ野生生物研究所事業」

(1) 基本的な考え方

- ・ 特に調査研究・情報収集発信事業を実施する拠点として位置づけるとともに、普及啓発事業への関わりをより一層強める。
- ・ 特にラムサール条約登録湿地である宍道湖・中海の特性を生かした事業に取り組む。
- ・ 宍道湖グリーンパーク(ビオトープ池)と尺の内公園を附属施設として位置付けて、調査研究ならびに普及啓発事業の場としてより一層の充実を図る。
- ・ グリーンパークと宍道湖自然館ゴビウスで取り組む各事業と密接に連携する。

(2) 進め方

- ・ 専門的学術研究を進め、その過程で得られる知見や成果等を保存管理し、有効に活用できるように施設・体制の整備をする。
- ・ 調査研究の成果を常設あるいは企画展示、観察会等の普及活動に活かしていく。
- ・ グリーンパークならびに尺の内公園については野生生物が生息できる場所としての機能を高めつつ、より多くの人の利用に供する整備等を進める。
- ・ グリーンパークやゴビウスの展示や資料作成へのより効果的な協力を図る。
- ・ 実習室の利用を推進し、普及啓発事業のより一層の充実を図る。
- ・ 調査研究・普及啓発事業に必要な文献や標本などの資料を保管する。
- ・ 事業全体の独自性・効率性を高めるため、調査研究・情報収集発信の拠点として必要な設備や備品を整備する。
- ・ 各種の関係機関・団体、研究者・ナチュラリストと適宜連携をとっていく。

2. 「宍道湖グリーンパーク事業」

(1) 基本的な考え方

- ・ 地域に密着した施設として、西日本有数の水鳥飛来地でありラムサール条約湿地となった宍道湖・中海の特性を生かした環境学習・啓発の機能強化に努める。
- ・ 野鳥や昆虫など多様な野生生物が生息し、来園者が散策や学習をしてみたいと感じる魅力ある管理に努め、整備した環境を調査研究や普及啓発事業に結びつける。
- ・ 自然環境や野生生物の学習や保護活動などを通して、地域住民、研究者、ナチュラリストが交流できる場となるよう努める。
- ・ 自然環境保護に対する人々の学習を支援できるよう整備し充実を図る。
- ・ 特に宍道湖自然館ゴビウスとの事業連携を強める。

(2) 進め方

- ・ 来園者の満足度を高めるために、自然と親しむきっかけづくりとなる展示物などの設備や備品を充実し、グリーンパークの利用促進に努める。
- ・ 自然観察会などを通じ、地域の人たちへの自然保護意識の普及啓発の場となるよう努める。

- ・ 環境学習などを希望する団体対応の充実を図る。
- ・ 野鳥観察舎をはじめ園内全体を対象として解説板の設置などの普及啓発機能を高める整備を進める。
- ・ 園内ならびにビオトープ池において、鳥類や昆虫類などをはじめとした野生動植物の生息環境をさらに充実させるための整備や管理を検討し実行する。
- ・ パークボランティアの活動の輪を広げ、さらに交流が深まる場とする。
- ・ 研究所とともに園内やビオトープ池、周辺に生息する鳥類や昆虫類などの効率的なモニタリングに努め、最新の自然情報の収集と発信を行える場とする。
- ・ カワセミの人工営巣壁の管理をはじめ水場等があるバードサンクチュアリの機能の充実に努める。
- ・ 地権者の理解を得て水田に水を張り「白鳥の採食場」としての環境整備を行うとともに、生物調査や自然観察会を実施する。

3. 「ふるさと尺の内公園事業」

(1) 基本的な考え方

- ・ 里山環境にある公園として、野生生物の生息環境を整備しながら、人と自然のふれあいの場を提供できる公園づくりと活用を図る。
- ・ 野生生物の生息や普及啓発面にも配慮して効果的な管理を行い、必要な整備を実施する。
- ・ 地元小学校、幼稚園、保育園など地域の住民がより利用しやすくなるように整備と活用を図る。

(2) 進め方

- ・ 来園者の目線に合わせた自然観察会などを実施し、地域の人たちへの自然保護意識の普及啓発の場とする。
- ・ 園内で里山の樹木を観察できるように整備し、あわせて園路やベンチなどの利用環境を整える。
- ・ 案内板、解説板、樹名板の整備を進める。
- ・ 後背地の森林も含め、昆虫や鳥類などの調査を継続しながら環境整備を実施する。
- ・ オニバスなどの希少植物や県内を代表する植物などの保護増殖の検討の場として活用する。

4. 「調査研究事業」

(1) 基本的な考え方

- ・ 県内の希少な野生動植物の分布、生態、減少要因などを研究する。
- ・ 宍道湖や中海など県東部地域の自然特性を活かしたテーマに重点を置く。
- ・ 宍道湖グリーンパーク（ビオトープ池）やふるさと尺の内公園など施設の特徴を生かした調査や、それぞれの施設の整備や管理に生かすことができるような調査研究にも取り組む。
- ・ 宍道湖、里山、水辺環境、希少種保護、生物多様性など多くのテーマがある中、限られた時間、設備、予算、スタッフの下で効率よく研究を進展させるため、職員の自主研究のほかに、大学や博物館との連携をはじめ、第一線研究者への委託研究、地域の研究者・ナチュラリストとの共同研究を実施していくほか、客員研究員制度を活用する。

- ・ 研究テーマの選択にあたっては、地域性、重要性、緊急性、発展性を常に考慮していく。

(2) 進め方

◎職員自主研究

①鳥類の環境利用特性の研究

宍道湖西岸域を中心に鳥類の生息状況を把握し、湖面、河口、水田、ヨシ原、草地、河畔林などの環境要素の利用特性について研究する。

②マガン・ヒシクイ・コハクチョウの日周行動特性の研究

宍道湖西岸域に渡来するこれら鳥類の日周行動を調査し、ねぐら、採食場、休息場等の分布状況を記録することで、これら鳥類のおかれている現状を把握するための基礎データを蓄積する。

③特定鳥類の生息状況調査

しまねレッドデータブック掲載種やソウシチョウ、カワウなど、生息の動向が注目される種を対象に県内の生息状況について情報の収集や調査を行う。

④ヒシクイ・ハクチョウ類のビルパターン解析

宍道湖西岸に渡来するヒシクイとコハクチョウのビルパターンの記録をとり、亜種や個体識別の情報として蓄積し、解析する。

⑤鳥類生息情報の集積

島根県産鳥類目録や地域別の鳥類目録作成のための基礎的な情報収集のほか、レッドデータブック掲載種などの鳥類の生息情報を収集し、データベース化を図る。

⑥ネクイハムシ亜科の進化生物学的研究

ネクイハムシ亜科甲虫類の系統進化について、DNA解析も含めて研究を行う。日本列島のネクイハムシ亜科の進化を探るには日本の周辺地域も研究フィールドとする必要があり、極東ロシア、韓国、中国、東南アジア、北アメリカなどの種についても検討する。

⑦日本産水生甲虫類の分類学的研究

ゲンゴロウ類・ガムシ類・ドロムシ類などの水生甲虫類の記載・分類を行う。特に不明な点が多い幼生期について野外調査や飼育、分子系統によって解明する。

⑧島根県の止水および流水域に生息する水生昆虫類の保全生物学的研究

島根県の湿地や池、河川に生息する昆虫類の分布状況や生態について、特に絶滅危惧種を対象に調査を行う。

⑨山陰の海岸に生息する昆虫類に関する研究

海浜や岩礁といった特殊な環境に生息する昆虫類について、特に絶滅危惧種を対象に調査を行う。

⑩島根県産昆虫目録を作成するための基礎調査

標本や文献記録の整理を行う。特に隠岐諸島の昆虫目録の作成、陸生ガムシ類およびカメムシ目キジラミ上科の分布調査を行う。

⑪ビオトープ池の生物調査

北側用地に造成されたビオトープ池とその周辺の田んぼの鳥類や水生生物を継続的に調査し、ビオトープ池における生物種多様性のありかたと今後の維持管理に役立てる。

⑫尺の内公園の生物調査

公園および周囲の森林の鳥類や昆虫を継続的に調査し、尺の内公園における生物種多様性のありかたと今後の維持管理に役立てる。昆虫や鳥類以外の動物も調査対象に含める。

⑬グリーンパーク周辺の鳥類定量カウント調査

宍道湖グリーンパーク周辺を環境別に7つのサイトに分け、出現種や個体数の変動などを把握す

ることで、鳥類の生息環境保全のための基礎的資料を得る。

⑭グリーンパークにおけるナゴヤサナエの羽化殻調査

多自然型湖岸堤（ワンド）で発生するナゴヤサナエの個体数と消長を調査し、生息環境保全のための基礎的資料を得る。

⑮宍道湖・中海における生物多様性に関する研究

ワカサギの系統保存と繁殖を進める。

◎委託研究

①ガン・カモ・ハウチョウ類個体数調査（継続）

宍道湖・中海やその周辺に飛来するカモ科鳥類のカウント調査を行う。

②日本産ドロムシ類のDNAバーコーディングと系統解析（継続）

河川調査で多く採集されるドロムシ類の幼虫の同定手法として検討するとともに、系統解析を行うことにより各種の系統的な位置づけを解明する。

③島根県のセミ相（新規）

県内のセミ類の生息状況をまとめ、現状を分析する。

④隠岐島前の陸上節足動物相調査（継続）

保全生物学的・生物地理学的に重要な地域と考えられる隠岐諸島のうち、特に島前の陸上節足動物相について調査を行う。

⑤島根県のザトウムシ類の生息実態調査（新規）

県内のザトウムシ類の現地調査を行い、生息種の実態を把握する。

⑥宍道湖における突発的な水草の分布拡大に関する原因の解明（新規）

宍道湖で突発的に発生する水草について、出現種、群集構造、バイオマス等の定量化を行い、その原因を検討する。

◎種の保存と環境整備に関する連携事業

宍道湖・中海に生息する野生生物に対して環境整備をともなう調査研究を外部と共同しながら実施する。

5. 「普及啓発事業」

(1) 基本的な考え方

- ・ 普及啓発事業は、子どもや地域の人々に自然の仕組みや大切さ、花や鳥や虫がどう暮らしとかかわっているのかを楽しみながら学ぶ基本的な事業ととらえ、重点事業に位置づける。
- ・ 地域の自然特性を活かしたテーマを中心に取り組み、ラムサール条約湿地である宍道湖・中海の自然や生物のテーマに重点を置く。
- ・ 宍道湖グリーンパーク（ビオトープ池）やふるさと尺の内公園など財団が整備してきた施設とその周辺環境の特色を生かしたテーマに重点を置く。
- ・ 実施する意図を的確に捉えつつ、参加する側がわかりやすく楽しめる内容にする。
- ・ 調査研究で得られた知見を取り入れるなど学術的な内容も盛り込んでいく。

(2) 進め方

①自然観察会などの開催

地域住民や小中学生を対象に、鳥類や昆虫類、魚類などのほか子どもにも親しみやすい題材をとりあげ、自然保護意識啓発のための季節に合わせたプログラムを組んで開催する。

宍道湖グリーンパーク

- ・ 定例観察会として年間12回を計画（毎月）。
- ・ 地元と協力関係にある田んぼにちなんだ活動や観察会を年間5回計画し、定例観察会や地元幼稚園との企画等と兼ねて実施。
- ・ 来園者向けの定例イベントとして年間8回を計画（第一日曜）。観察会よりも気軽に参加できる内容とし、自然と親しむきっかけづくりとして実施。
- ・ 来園者向けの特別イベントとして年間2回を計画（5月と9月の連休）。

ふるさと尺の内公園

- ・ 定例観察会として年間6回（5-8、10-11月）。

②企画展の開催

宍道湖グリーンパーク

- ・ 秋（9-10月）「マガンの渡来日予想～宍道湖のガン類（仮題）」。
（10-11月）「コハクチョウの渡来日予想～宍道湖のハクチョウ類（仮題）」。
- ・ 冬（12-1月）「鳥と虫の色ともよう（仮題）」。（ゴビウスと共通テーマの開催）
（2-3月）「未定（世界湿地の日のテーマにそった企画展）」。

その他

- ・ グリーンパークやゴビウスを会場として昆虫や鳥類をテーマにした展示をする。

③展示更新

- ・ グリーンパークの観察舎やゴビウス館内ガラスケースの展示について、季節やフィールドの変化にあわせた更新を適時行い、来園者の興味関心を引くように管理する。

④研修会・シンポジウムなど

- ・ 宍道湖学習講座など地域の自然や生きものをテーマにした研修会、講演会などを開催する。

⑤パークボランティア制度

- ・ ボランティアの方々とのコミュニケーションを深め、観察会のプログラム材料や参加者に興味づけるノウハウなどの研修会を必要に応じて実施し、ボランティア活動をとおしてより充実感のある活動の場の提供を検討する。

⑥宍道湖グリーンパーク 15周年にちなんだ企画

普及啓発事業の中にグリーンパーク 15周年を記念した企画を取り入れる。

- ・ 6月6日に15周年を迎えることから、5月末から6月にかけて開園から15年をふりかえる企画展を開催する。
- ・ 来園者に対する感謝の意を表すとともに一層の利用促進を図るため、6月5日に「グリーンパークへようこそ（仮）」と称して体験活動やプレゼント企画、休憩（飲食）テントの設置などを盛り込んだ企画を実施する。
- ・ 来園者が野生物や自然観察などにより興味関心を持つきっかけとなるようなリーフレットなどを作成し配布する。

⑦施設利用促進のための企画

利用促進が自然とふれあう機会を増やすことにつながるという趣旨から、年始にプレゼント企画を実施するなど、適時適度に計画する。

⑧民間団体への助成

財団事業に合致した活動をする民間団体には、パートナーシップに基づく助成を検討する。

⑨公共サービス

普及教育ではないが、グリーン財団が社会的に認知されてきた証しとして、次のようなサービス業務がある。他業務との兼ね合いがあるが、いずれも業務に支障のない範囲で今後とも対応していきたい。

「公的機関からの審議会委員就任要請」

「公的団体からの講師派遣の要請」

「マスコミからの各種の問い合わせ、取材対応」。

6. 「情報収集発信事業」

(1) 基本的な考え方

- ・ 研究所としてもっとも重要な「標本」「文献」「写真」「映像」「データ」などの「知的資産」を収集、整理し、適切に保管しながら、展示や情報提供などへの活用を図る。
- ・ 調査研究や普及啓発事業を展開する上で、各種情報の収集や整理、発信は欠かすことができないものであり、より一層これらの事業と結びつけていく。
- ・ 基本的な文献と標本を揃え、情報の集積とデータベース化を進める。

(2) 進め方

①標本の収集、整理、保存

- ・ 研究用の標本を収集、整理、保存する。
- ・ 普及教育活動に必要な標本をそろえる。

②文献の収集、整理、保管

- ・ 研究所に必要な文献資料を入手し、データベースに登録する。
- ・ 入手にあたっては、各地の研究機関、博物館、大学との雑誌交換（ニュースレターや研究報告書など）によって収集するほか、必要な文献は計画的に購入する。

③映像・写真の収集、整理、保管

- ・ 研究所に必要な映像・写真を収集し、保管する。

④鳥類等の観察情報のデータベース化

- ・ グリーンパークに寄せられる鳥類の観察情報やレッドデータブック掲載種など希少性の高い生物などの生息情報のデータベース化を図る。

⑤学会への加入、参加

- ・ 関連学会に加入し、学会や会誌をはじめ全国の研究者との交流等から専門性を高め、より充実した事業の展開に結びつける。

⑥研究報告書の発行

- ・ 研究成果の公表（情報発信）を目的にして、平成24年3月に第15号を予定する（B5版、300頁、1000部発行）。
- ・ 平成22年度に引き続き、研究報告の特別号の発刊を検討する。
- ・ 全国の博物館、大学、研究所、学会、自然保護団体などの関連機関および島根県の行政機関、関連団体、公立高校、公立図書館などに寄贈する（雑誌交換）。

⑦ニュースレターの発行

- ・ 来園者や観察会参加者、財団の活動に関心を持つ方々に自然情報や財団の活動をわかりやすくつたえるとともに、記録として残すことができるニュースレター（年4回、4ページ程度）を発行する。
- ・ 全国の自然保護団体や博物館などとの交流や情報を交換するために雑誌交換にも供する。

⑧ホームページの運用

- ・ 部分的な更新によるフィールド情報やイベント情報などタイムリーな情報発信をより一層充実するとともに、財団の事業や施設あるいは自然や野生生物に対する興味を引き出せるように検討を重ねていく。

⑧収集資料の整理と活用

- ・ 文献や標本などを整理し、データベース化などの作業を進める。

⑨普及啓発資料などの発行

- ・ グリーンパークや尺の内公園においては、来園者が野生生物や自然観察などにより興味関心を持ち学習に役立つリーフレットなどを製作する。
- ・ ゴビウスと共同で企画展テーマの生物や県内の野生生物を紹介するカレンダーなどを発行する。

7. 「地方公共団体からの受託事業」

地方公共団体から業務の委託を受けることは、当財団の寄付行為にも明記してあるとおり、目的の一つであるだけでなく、特定公益増進法人の認可条件ともなっている。今後とも地方公共団体からの受託業務は、積極的に受託していくものとする。なお、平成17年度より指定管理者制度の対象となった宍道湖自然館ゴビウスの管理運営業務も同様に考え、さらに充実・発展するように取り組んでいく。

[参考] 平成23年度は平成22年度とほぼ同程度の受託事業が想定される。

①宍道湖自然館ゴビウスの管理運営事業

島根県水産課からの委託業務（指定管理者）。

②鳥類生息調査

島根県森林整備課からの委託調査。

③ラムサール関連事業

島根県環境政策課からラムサール条約湿地である宍道湖、中海の普及啓発等の委託業務。

④しまねレッドデータブック改訂に伴う作業

島根県自然環境課からの委託業務。

⑤出雲市自然環境調査研究

出雲市からの委託調査。

⑥斐伊川水系外水辺環境調査

国交省出雲河川事務所からの委託業務。

平成23年度 宍道湖グリーンパーク・ふるさと尺の内公園の定例観察会等

◎宍道湖グリーンパーク 「定例自然観察会」

開催日	タイトル(仮)	案内内容	時間	定員
4/17(日)	春を感じる自然観察会	春になりいろんな花が目立ってきたよ！草花あそびや、草花のしくみを地面の上から下まで観察しよう。	10:00～12:00	20名
5/15(日)	田植えのころの生きものたち	冬にハクチョウたちが飛来する「ふゆ・みず・たんぼ」は田植えの季節。水をはった田んぼにはどんな生きものがいるでしょう？	9:30～12:00	20名
6/19(日)	田んぼの生きもの観察会	水もあたたかくなり、田んぼの水生物たちもイキキ活動しています。初夏の田んぼで生きものを探してみよう。	10:00～12:00	20名
7/10(日)	トンボをみつめて観察しよう	大きなトンボ、スリムなトンボ、しぶい(?)トンボ…。いろんなトンボを探してみよう。もしかしたらナゴヤサナエの羽化も観察できるかも。	10:00～12:00	20名
8/7(日)	田んぼの植物標本づくり	身近な草花だけどなにかわからない。除草剤ゼロの田んぼではどんな草花が見つかるのか！夏休みの自由研究にいかが？	9:30～11:30	20名
9/11(日)	バッタをみつめて観察しよう	草や地面にうまくカモフラージュしたバッタ探しをしてみよう。どんなバッタに出会えるかな？	10:00～12:00	20名
10/23(日)	秋を感じる自然観察会	秋になり、冬鳥たちの姿も増えてきて、木々の葉も色づくころ。公園を散歩しながら、みんなで秋の発見しませんか？	10:00～12:00	20名
11/13(日)	(ラムサール・モニターツアーとして実施) バスでめぐる宍道湖の自然と歴史の旅 (仮)	2012年、古事記編纂1300年をむかえます。そこで宍道湖周辺の自然と歴史のスポットをバスで巡るモニターツアーを行います。	9:30～ 終了時間未定	30名
12/11(日)	バードウォッチングして絵がみ書こう	双眼鏡や望遠鏡で鳥の姿をじっくり見たら、創作意欲がわいてくるかも？お正月に手づくりの絵がみを送ってみては？	10:00～12:00	20名
1/15(日)	鳥たちの色やもようを見てみたら…!!	あらためて見てみると、じつにカラフルな鳥たち。そして、美しいもよう。自然界のいろどりを楽しみましょう。	10:00～12:00	20名
2/12(日)	足もとのちいさな生きもの探し	落ち葉の下や、そのまた下には何があるのかな？私たちの足もとにいる小さな生きものたちを観察してみよう。	10:00～12:00	20名
3/11(日)	バードウォッチングとかざみどりづくり	冬鳥たちの姿も少なくなってくるころですが、まだ間にあう?!バードウォッチングと、かんたんにつくれる「かざみどり」づくりを楽しもう。	10:00～12:00	20名

◎宍道湖グリーンパーク 「わくわくGPひろば」

開催日	タイトル(仮)	案内内容	時間	定員
4/3(日)	しじみキーホルダーづくり	宍道湖のシジミを使って、キーホルダーや携帯ストラップ作りに挑戦！貝殻に布を貼り付けて鳥や動物などステキに変身させましょ♪	10:00～15:00 (最終受付 14:00)	30名
7/3(日)	グリーンパークで夏の昆虫を探そう①	7月の宍道湖グリーンパークの園内でみられる昆虫について採集や観察を行います。雨天時は屋内にて世界の昆虫の標本を観察したり、スケッチしたりします。	①10:00～ ②11:00～ ③13:00～	60名 (各20名)
8/14(日)	グリーンパークで夏の昆虫を探そう②	8月の宍道湖グリーンパークの園内でみられる昆虫について採集や観察を行います。雨天時は屋内にて世界の昆虫の標本を観察したり、スケッチしたりします。	①10:00～ ②11:00～ ③13:00～	60名 (各20名)
10/2(日)	鳥のいるミニジオラマづくり	鳥によって、生活している場所はさまざま。そんな鳥たちの生活風景を、お部屋に飾れるミニ模型で表現してみよう！	10:00～15:00 (最終受付 14:00)	30名
11/6(日)	万華鏡をつかってあそぼう	手作り万華鏡を片手に園内散策をたのしみませんか？いつもと違った秋を万華鏡越しに見てみよう。	10:00～15:00 (最終受付 14:00)	30名
12/4(日)	ステンドグラス風 葉っぱアートに挑戦	緑・赤・黄色…いろいろな色の葉っぱたち。光にかざしてみるときれいな、葉っぱアートを楽しみませんか？	10:00～15:00 (最終受付 14:00)	30名
2/5(日)	もぐるカモをつかってあそぼう	宍道湖には「もぐるカモ」と「もぐらないカモ」がいます。浮き沈みするカモの模型を作ってみましょう。見事、もぐってくれるかなあ？	①10:00～ ②13:00～	30名 (計15名)
3/4(日)	しじみゲームをつかってあそぼう	グリーンパークの野鳥観察舎でも人気があるシジミオセロ！携帯できるマインジミゲームセットを作ろう。	10:00～15:00 (最終受付 14:00)	30名

◎ふるさと尺の内公園 「定例自然観察会」

開催日	タイトル(仮)	案内内容	時間	定員
5/8(日)	初夏のバードウォッチング in 尺の内公園	初夏の日差しの下、キビタキなどの小鳥たちのさえずりで公園やその周辺はにぎやかです。緑の美しい季節に鳥たちの彩りも楽しみましょう。	9:00～11:00	20名
6/11(土)	夜のホタルの観察会	初夏の風物詩でもあるホタルは幻想的な光を放ち、尺の内公園内を飛び回ります。ゲンジボタル、ヘイケボタルの観察とホタルの生活について学びます。	18:30～20:30	20名
7/24(日)	わくわく昆虫観察会①	夏の公園には池の周りを飛びかう昆虫や樹液に集まる昆虫がたくさんいます。実際に虫取りアミで昆虫をつかまえて観察をします。	10:00～12:00	20名
8/28(日)	わくわく昆虫観察会②	夏の公園には池の周りを飛びかう昆虫や樹液に集まる昆虫がたくさんいます。実際に虫取りアミで昆虫をつかまえて観察をします。	10:00～12:00	20名
10/30(日)	秋のバードウォッチング in 尺の内公園	木の葉が落ちた公園は明るく野鳥の観察に最適です。枝から枝に飛び交う小鳥たちを観察しましょう。	10:00～12:00	20名
11/27(日)	これから始める 大人のバードウォッチング講座	わたしたちの身近にいる鳥たち。でも、日常生活の中ではその姿をじっくり見る機会はほとんどないかもしれません。バードウォッチングを趣味にしてみたいと思う方に、まずは身近なところから見てみませんか？とご案内する大人向けの野鳥観察講座です。	8:00～11:00	20名